

朝の礼拝

聖書 詩編 104 編 10-18 節 (旧約聖書 941 頁)

主は泉を湧き上がらせて川とし
山々の間を流れさせられた。
野の獣はその水を飲み
野ろばの渴きも潤される。
水のほとりに空の鳥は住み着き
草木の中から声をあげる。

主は天上の宮から山々に水を注ぎ
御業の実りをもって地を満たされる。
家畜のためには牧草を茂らせ
地から糧を引き出そうと働く人間のために
さまざまな草木を生えさせられる。
ぶどう酒は人の心を喜ばせ、油は顔を輝かせ
パンは人の心を支える。
主の木々、主の植えられたレバノン杉は豊かに育ち
そこに鳥は巣をかける。こうのとりの住みかは糸杉の梢。
高い山々は野山羊のため。岩狸は岩場に身を隠す

パンは人の心を支える

私の子どもが幼かった頃、私たち家族は広大な敷地を持つ学校の構内にある宣教師館に住んでいました。周囲は樹木に囲まれ自然豊かな環境でした。妻が庭で洗濯物を干している時、時折蜂が飛んできました。しかし妻は逃げもせず「お邪魔してごめんなさいね」と言いながら淡々と洗濯物を干していました。

後に妻は「私たちは自然の中で生活させてもらっていることを、子どもたちに伝えたかったから」と言いました。その後、娘が蜂に刺され、私は蜂の巣があるのも知らず垣根のつるを取って軍手の上

から刺されました。まさに身をもって自然の中で生活していることを実感しました。

私は趣味で野菜作りを20年以上していました。ナスの葉が一晩で虫に食べられるなど何度も失敗しました。しかし耕し、種を蒔き、毎日毎日眺めて成長を楽しみにして過ごしました。自然の営みを通して育てることの難しさ、自分自信が欲張りで、浅はかだったことを幾度も教えられました。

本日の聖書に「パンは人の心を支える」という言葉があります。ここではパンはお金で買って、自分のおなかを満たし、身体を維持させるためにあると言っているだけでしょうか。土を耕し小麦の種を蒔き、水をくみ雑草を取り、汗水流して成長を見守り、収穫を祈ることを通して育てる人の心を支えているのではないのでしょうか。命の営み、自然の厳しさや豊かさを通して、私たちの心は支えられ、神様の導きと恵みを感じることができるのではないのでしょうか。

祈祷 祈りましょう

わたしたちを愛し、わたしたちを励まされる主よ。

あなたは自然の厳しさと豊かさを通して、私たちの心を支えて下さいます。どうか、今日一日もすべてをあなたに委ね、御心に適う道を歩ませて下さい。

今、様々な理由によって就学、就労の困難な生徒、教職員のために祈ります。どうか主の慈愛を悟り、主の御前で共に感謝を献げる日をひと時でも早くお与え下さい。

主イエス・キリストの御名によってお願いいたします。アーメン